

表 シカゴ連銀経済報告（2021年10月20日公表）

項目	動向	関係者報告・背景
雇用と賃金	雇用は控えめに（modestly）増加 賃金は大幅に(strongly))上昇	熟練、非熟練を問わず労働者を見つけるのが困難な状況が続いているが、求職者の数が増加しているとの報告もみられた。特にレストランや製造業では、労働者不足のために営業時間の制限を続けている企業もあった。新型コロナウイルスの感染者が多いために、対面式の仕事への復帰を遅らせている企業が多く、濃厚接触による欠勤は数カ月前よりも増加していた。募集職種への応募者が少ないことから、賃金を引き上げたほか、既存の従業員を維持するため、通常の年次昇給に加えて追加の昇給を行った企業もあった。
物価	全体的に大幅に(strongly)上昇	物価は今後12カ月で緩やかに上昇すると見込まれている。生産者価格は、材料費、エネルギー費、人件費、輸送費などの上昇により、大幅に上昇した。消費者価格は全体的に堅調に上昇した。消費者価格が上昇した要因として、堅調な需要、限られた在庫、コスト上昇、コスト上昇分の顧客への転嫁能力の向上などが挙げられた。
個人消費	あまり変化なし（little changed）	レジャーおよびホスピタリティー関連の支出は、特にホテルやレストランで減少した。対照的に、非自動車部門の小売売上高は緩やかに増加し、家具・家庭用品、家電、電子機器の需要は引き続き堅調だった。ホームセンターや食料品への支出は横ばいだったが、高水準を維持した。小型自動車の販売台数は、中古車販売台数が回復したものの新車販売台数が減少したため、やや減少となった。自動車ディーラーの利益率は引き続き高い水準にあるが、夏のピーク時に比べてさらに低下し、顧客の好みに合わせて車を注文することが一般的になったために、ディーラーの在庫は減る可能性があるとの報告がみられた。
企業支出	緩やかに(moderately)増加	小売在庫はサプライチェーンの問題により多くの分野で低水準にとどまっており、2022年後半まで続くともみられている。小型自動車の新車および中古車在庫は、供給面での制約によりかなり低い水準となった。製造業では、販売用の在庫が非常に少なく、一部の金属、プラスチック、マイクロチップを含む幅広い材料が不足した。輸送サービスに対する需要は引き続き高まっており、国内外の出荷の遅れが続いているとの報告が多くみられた。設備投資は緩やかに増加し、今後1年間も同様のペースで拡大するとみられている。商用・工業用のエネルギー消費量は横ばいだったが、新型コロナウイルスまん延前の水準を上回った。
建設と不動産	前四半期とほぼ同様	住宅用の不動産建築は、資材や労働力の不足によりプロジェクトが停滞したため、横ばいとなった。住宅用の不動産業もほとんど変化はなかった。住宅販売は横ばいで、価格は緩やかに上昇しており、在庫の増加が価格上昇を抑制しているとの報告がみられた。商業用の建築は、わずかに増加した。成長は工業分野に集中しており、企業の操業や顧客の近くに在庫を置くための施設に対する強い需要が指摘された。商業用の不動産業は横ばいだった。オフィス分野の賃貸・販売活動は、パンデミック前の水準を大幅に下回ったが、ここ数週間でオフィス物件の展示が増え、新型コロナウイルス予防対応にかかるコストを回避するため、新しいスペースに移転したオフィスもあった。
製造業	控えめに（modestly）増加	多くの分野で新型コロナウイルスまん延以前の水準を上回り、ほとんどの企業が労働力や物流の問題を抱えながらもフル稼働しているとの報告がみられた。自動車生産台数は、マイクロチップやその他の材料の不足により生産が制限され、自動車部品メーカーの注文キャンセルが発生したため、低水準にとどまった。重機の需要は、農業および建設分野での販売増加により、控えめに増加した。大型トラックの需要は、特に中古トラックを中心に堅調に推移した。鉄鋼の需要はほとんどの産業で増加し、特に特殊製品が好調だった。鉄鋼サービスセンターの在庫は増加したが、長期的には新型コロナウイルスまん延前の水準を下回るとみられている。建築材料の需要は、住宅建設やリフォーム・プロジェクトに支えられ、引き続き堅調だった。
金融	ほぼ横ばい（flat on balance）	ビジネスローンの需要はほぼ横ばいで、M&Aローンに対する需要は引き続き堅調だった。ビジネスローンの質は、基準がやや緩んだものの、全体的には横ばいだった。消費者ローンの需要は穏やかに増加し、住宅ローンの活動は引き続き好調だった。住宅、自動車、クレジットカード市場の延滞率は史上最低水準で、ローンの質と基準はともに変化しなかった。
農業	トウモロコシおよび大豆の収穫量は記録的	一部の地域では干ばつに見舞われたが、トウモロコシと大豆の収穫量は予測を上回り、記録的な水準に達した。両作物の供給が豊富になったことで、価格に下降圧力がなかったが、一年前より高い水準となった。牛肉価格は横ばいだったが、牛乳価格は若干回復した。飼料コストの上昇に直面し、酪農家のマージンは縮小した。農地の価格と賃料は引き続き上昇し、政府プログラムや製品販売によるキャッシュフローが農業融資の需要を抑えた。

（出所）シカゴ連銀経済報告を基にジェトロ作成